

## 編集後記

予定より1ヶ月ほど遅れましたが、ようやく発行のはこびとなりました。

今回は大阪大学教授の福本先生より、中小スパン橋梁の分野において、鋼橋の競争力を向上させるために、技術開発によるブレークスルー（技術突破）への努力を怠たらぬように、という貴重な巻頭言をいただき、ありがたく思っております。

本号より標題と概要を英訳して掲載することにいたしました。標題だけでは意を尽くせないところもあるので、概要とセットで何とか内容が言い表わせればと思っております。

また本号は前号より50ページ程増ページになりました。執筆者には実務が繁忙をきわめる中で、努力いただきました。原稿の中には、相当長文のものもありますが、企業の技報の役割として資料的なものをできるだけデータを付けて掲載することも必要であろうという考えから、あえて長文のままで編集しております。

あれやこれや、盛りだくさんになった事が、発行の遅れた言いわけとさせていただきます。

昨年9月に、当時編集委員長であった島田常務が病魔に倒れ、急逝されました。博識で親しみやすい人柄から、皆に好かれ期待されていただけに、残念でなりません。ご冥福をお祈りします。

本号では編集委員長はじめ、編集委員も大幅に移動がありました。事務局も原委員から宮坂委員へと若返りました。よろしくおねがいいたします。

4月になると次号の準備が始まります。より一層宮地らしい技報作りに努力するつもりでおります。

## 技報編集委員会

委 員 長	高 野 祐 吉						
副 委 員 長	小 塚 義 夫						
委 員	伊 木 達 治	伊 東 孝	菊 地 隆 三				
	木 越 俊 夫	椎 名 薫	高 橋 亘				
	永 井 英 司	能 登 宥 愿	原 昭 恵				
	三 木 茂 喜	清 水 功 雄*	宮 坂 睦 夫*				

\* 印 事務局兼務

## 宮 地 技 報 第 4 号

発行日 昭和63年3月1日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

(日本橋SKビル) TEL 03 (639) 2111(代)

印刷所 三好印刷株式会社